

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0372400259		
法人名	特定非営利活動法人 ゆう・ゆう		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地	岩手県花巻市東和町安俵6区97番地 (電話) 0198-43-1050		
評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団 評価公表課		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成19年10月5日	評価確定日	平成19年11月21日

## 【情報提供票より】(19年 9月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 2 月 26 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤8人、非常勤2人、常勤換算8.3人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円) <del>無</del>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) <del>無</del>	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要( 9月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立東和病院、織笠内科医院、おばら医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>花巻市東和町の中心部に位置し、東和町総合福祉センター、県立東和病院、老健施設と隣接しており、北側には農家の産直店、南側には天然温泉施設があり、環境に恵まれている。</p>
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域公民館行事への参加、グループホーム主催の行事、例えば、季節の行事、クリスマス会、敬老会、地域交流会などへ地域の方々の参加があり、地域に根ざした状況に改善されてきている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票を基に、分野別に相互評価、自己評価、指導助言により、改善に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者家族、民生児童委員、行政区長、行政担当者、学識経験者等で構成され、2~3ヶ月に1回程度開催している。外部評価結果についても協議されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用料等は、毎月現金納入が原則となっており、家族又は身元引受人が毎月1回グループホームを訪れることから、日頃の生活状況をお互いに共有できる。意見箱を玄関に設置しているが投書の実例はない。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎月1回地域公民館に集まったの行事への参加、敬老会、地域の祭りでの子供たちとの交流などを通して、施設への理解を深めて貰えるように努力している。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の名前のおり和やかでゆとりと安らぎのある暮らし、利用者の気持ちを第一に考えて運営している。職員全員にも理念が浸透し、利用者、その家族との信頼も深まっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に掲示している。職員会議を月1回以上開催し、理念を確認し合い共有し、月々の重点目標を定めて議題として、討議している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月1回程度、地域の行事(にぎにぎ体操・お茶会・ひとり芝居など)に参加している。グループホーム主催行事(クリスマス会、敬老会など)には、地域の方々にも参加をいただいている。地域の祭には子供のみこしの来訪もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月の定例職員会議で自己評価票に基づき、分野ごとに自己評価しながら、改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、民生児童委員、行政区長、行政担当者、学識経験者などで構成されている運営推進会議で2~3ヶ月に1回程度開催し、意見交換を行い、委員に共通理解を頂いている。会議形式なので本音が出ないのではと思っていることが課題である。	○	会議形式なので本音が話せないのではと思われ、懇親会などを開催して自由な意見交換をする場を設定することが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>旧町立の施設を指定管理者として指定され、運営され逐次施設の運営管理報告がなされている。年1回は事業計画、事業報告、予算、決算報告の義務がある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用料納付が現金納付であり、家族、身元引受人等が必ず1回はホームに来訪され、その時に日常生活状況を説明し、金銭出納簿の確認もして貰っている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を玄関に設置して、苦情、意見を受け入れる体制は整っているが実例はない。毎年10月に家族へのアンケートを実施している。回収率は9分の7であった。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開所以来、自己都合により1名の退職職員があったが、職員全員が正職員であることが特徴的である。夜勤専門員を2名採用し、施設長、産前職員の労働軽減を図った。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム協会主催の研修会等へは全職員に参加するよう働きかけを行い、条件整備も図られている。毎月1回全職員参加のもと処遇会議(19:00~21:00)を開催している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>毎月1回、介護保険推進会議(病院、社協、介護施設、居宅支援センター等の職員で構成)に出席し、情報交換、困難事例の検討を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居直後は家族も一緒に過ごす時間を長く持つようお願いし、訪問回数も多く持つようお願いしている。月に1～2回、外泊している方もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理、掃除、畑仕事など日常生活の中から、できる人同士で支え合いながら作業をしてもらい、変化のある生活が出来るように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所申し込み時の実態把握調査の情報を基に、入所判定会議で協議し、ケースの状況により入所判定をしている。個人の状況を良く知ることから、介護計画、サービスの提供が始まると考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の処遇検討会議(全員参加、19:00～21:00)で検討されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	病状変化の著しい利用者に対しては迅速なケアプランの見直しが図れるような体制を整えている。しかし、まだ事例はない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの持つ多機能性とは何かを検討しているところである。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの協力医療機関と利用者のかかりつけ医との連携を密に図れるように努力している。ただ、地域に認知症の専門医がいない状況なので、このことが課題である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族との面談時に日頃の様子を説明し、施設として出来ること、出来ないことを説明している。終末期の受け入れについても検討している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	重要事項説明書で了解を得ている以外に、例えば広報誌への写真掲載などについては、その都度口頭で家族等の了解を得て発行している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを尊重しながら、さりげなく誘導している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護職員で調理師免許を持っている方がいるので、その方の指導のもとで調理している。調理準備や配膳など利用者と一緒にやっている。出身地が県外の方も利用しているので、出身地の思い出の伝統食を提供できればと考えている。	○	県外からの利用者もいることから、行事食、伝統食も家族の協力を得ながら、取り入れられることを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴が嫌いな利用者には清拭、足浴で対応するなど希望に応じて、それぞれ対応している。就寝前の入浴が想定されるので対応体制を検討中である。	○	現在は夕食前には入浴を済ませている。就寝前の希望者がある時の体制を検討することが期待される。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物の収納、調理の手伝い、配膳、食器の片づけ、洗い、など利用者のやりたいこと、出来ることへの支援を積極的にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	調理材料の買い出しの手伝い、バスハイクでの本人の希望するものの買い物、地域の小学校の校内マラソン大会の応援など、できるだけ戸外へ出かけるよう働きかけを行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜8時に外部からの不審者の侵入防止のため、施錠しているが、普段は開放している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	花巻市消防署東和分署の署員の協力を得て、避難訓練を実施している。地域に消防組織がないので、地域住人との連携が課題である。	○	地域消防組織に代わるものとして、地元消防団との連携を図る計画である。今後は地域防災計画に基づき、地震、火災等に即応できる体制作りが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人会員に栄養士の資格を有する方がおり、その方の協力で年4回以上献立を検討している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目視により確認した結果、良く配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものや思い出深いもの、写真、テレビ、など自由に持ち込めるよう配慮されている。自室に閉じこめることも少なく、くつろぎの空間、ホールでゆったりと過ごしている方が多い。		